

第3次瀬戸市食育推進計画

令和4年3月

瀬戸市

目次

第1章 計画の基本的な考え方

- 1 策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

第2章 瀬戸市の食育の現状

- 1 アンケート調査結果
 - 基本方針1 「体」食を通して健康づくりを推進します・・・・・・・・ 3
 - 基本方針2 「心」食を通して豊かな心を育みます・・・・・・・・ 4
 - 基本方針3 「環境」食育活動を行うための環境づくりを推進します・・・ 5
- 2 本計画の策定に向けた重点事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

第3章 計画の目標

- 1 目指す姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2 基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

第4章 施策ごとの取り組み

- 基本方針1 食を通じて健康な体をつくる・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 基本方針2 食を通じて豊かな心を育む・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 基本方針3 食を通じて環境にやさしく暮らす・・・・・・・・・・・・ 17
- 基本方針4 食育を支える取り組みの推進・・・・・・・・・・・・・・ 19

第5章 計画の推進体制と進捗管理

- 1 推進体制と進捗管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 2 評価指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

参考資料

- 食育に関するアンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

第 1 章 計画の基本的な考え方

1 策定の趣旨

平成17年に施行された食育基本法（以下「法」という。）において、「食」は「生きる力を身に付けていくためには、何よりも重要」であり、「食育」とは「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」と位置付けています。

本市においては、法に基づき、平成22年に瀬戸市食育推進計画（以下「第1次計画」という。）、平成29年に第2次食育推進計画（以下「第2次計画」という。）を策定し、関係機関と連携を図りながら、食育に関する取り組みを進めてきました。

しかし、ライフスタイルや価値観の多様化に伴い、偏った食生活による生活習慣病や孤食の増加、食品ロスなど、食生活への関心や食を大切にする心の希薄化が進み様々な課題が生じています。

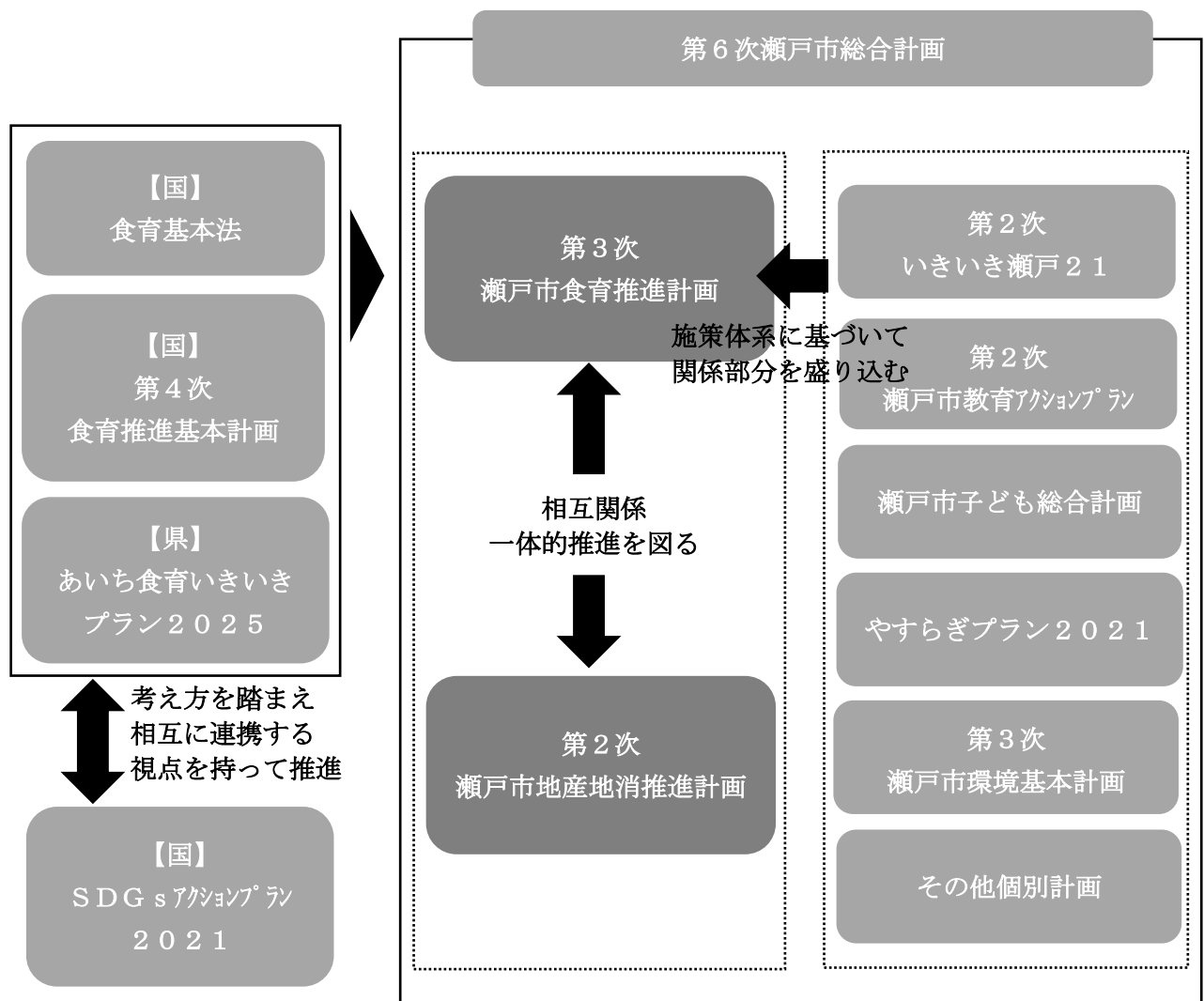
また、令和3年3月に国及び県の食育に関する計画が更新され、持続可能な世界の実現を目指すため、経済、社会、環境の諸課題に統合的に取り組むSDGsへの関心が世界的な広がりを見せる中、食育の取り組みにおいてもSDGsの考え方を踏まえて推進することが必要とされています。

このような状況下で、本年度、第2次計画が計画期間の最終年度を迎えることから、食を取り巻く環境の変化やこれまでの取り組みの評価を踏まえ、本市の食育に関する取り組みをさらに推進していくため、第3次瀬戸市食育推進計画（以下「本計画」という。）を策定します。

2 計画の位置付け

本計画は、法第18条に規定する「市町村食育推進計画」として、第6次瀬戸市総合計画を具体化する個別計画として位置付けます。

策定にあたっては、国の「第4次食育推進基本計画」や県の「あいち食育いきいきプラン2025」などの内容を踏まえ、相互に関係する第3次瀬戸市地産地消推進計画のほか、すでに策定されている本市の計画等と整合を図ります。



3 計画の期間

本計画の計画期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

なお、計画期間内であっても、社会情勢の変化など必要に応じて、随時見直しを行います。

第2章 瀬戸市の食育の現状

1 アンケート調査結果

第2次計画では、3つの基本方針のもと6つ推進テーマと目標像を定め、取り組みを評価するための数値目標を設定しました。

本市の食育の現状を把握するため、前回と同様にアンケート調査を実施した結果、数値目標に対する現状値は以下のとおりでした。なお、今回のアンケート調査は、児童及び保護者から、家庭における食育の考え方、取り組みなどを幅広く集約する点は前回と同様ですが、家庭での取り組み状況をより具体的に把握するため、対象者や設問の内容を再考し、表現を一部変更して実施しました。

アンケート調査結果から、食育の重要性は認識しているものの、なかなか家庭における食育の実践につながっていない実態が見られます。家庭は食習慣の基礎を形成する子どもたちにとって食育を実践する重要な場の一つですが、ライフスタイルの多様化などにより、一律の取り組みが難しい状況にあります。

評価	基準
A	目標達成
B	目標値に達していないが、現状値（R3）が策定時（H28）より増加
C	現状値（R3）が策定時（H28）より減少
—	設問の内容を大きく変更したもの

基本方針1：「体」食を通して健康づくりを推進します

推進テーマ：健康的な食生活の実践

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
栄養バランスのとれた食事を心がけている家庭の割合（%）	21.5	23.5～ 25.0	22.2	B

栄養バランスのとれた食事を心がけている家庭の割合は、21.5%から22.2%に、心がけている又はできるだけ心がけている家庭の割合も79.2%から91.6%に増加しました。

推進テーマ：食に関する正しい情報を理解し、安心・安全な食を選択する力を育む

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
「食」の安全性を気にかけている市民の割合（%）	33.6	35.0～ 40.0	25.9	—

前回の調査では、設問の内容を「商品表示、アレルギー、食中毒などの安全性を気にかけている」として児童及び保護者を対象に調査を行いました。今回の調査では、より日常的な「商品を購入するとき、原材料や産地を意識しているか」に変更しました。

この結果、原材料や産地を意識している市民の割合は25.9%、意識している又はできるだけ意識している市民の割合は57.5%となりました。

基本方針2：「心」食を通して豊かな心を育みます

推進テーマ：豊かな食体験の充実とおいしい楽しい食の推進

指標		策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
農業体験をしたことのある市民の割合 (%)	米づくり	47.1	50.0～ 60.0	—	—
	野菜づくり	89.9	89.9～ 93.0	—	—
家族で、農業体験をしたことのある市民の割合 (%)	米づくり	—	—	22.9	—
	野菜づくり	—	—	80.3	—

農業体験をしたことのある市民の割合について、前回の調査では、児童及び保護者を対象に、家族のいずれかの体験の有無を調査しましたが、今回の調査では、家族としての体験の割合を把握するため、設問の内容を「家族で体験したことがあるか」に変更し、保護者のみを対象に調査を行いました。

この結果、家族として米づくりを体験したことのある市民の割合は22.9%、野菜づくりを体験したことがある市民の割合は80.3%となりました。

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
食事の時間を楽しいと感じる市民の割合 (%)	43.6	43.6～ 46.0	51.4	A

食事の時間を楽しいと感じる市民の割合は、43.6%から51.4%に増加し、楽しい又はだいたい楽しいと感じる市民の割合も91.9%から92.4%に増加しました。

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
食（農）の過程を理解している市民の割合 (%)	30.2	30.2～ 34.0	—	—
農産物がどのようにつくられ、産地から運ばれているか理解している市民の割合 (%)	—	—	17.6	—

食（農）の過程を理解している市民の割合について、前回の調査では、設問の内容を「食べ物の生産、収穫、食事として出されるまでの過程を理解しているか」として調査を行いました。今回の調査では「農産物がどのようにつくられ、産地から運ばれているか」と具体的に変更して調査を行いました。

この結果、理解している市民の割合は17.6%、理解している又はだいたい理解している市民の割合は67.6%となりました。

推進テーマ：瀬戸の食文化の継承と地産地消の推進

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
瀬戸の農産物を食べたいと思う市民の割合 (%)	65.1	70.0～ 73.0	38.5	C

瀬戸市の農産物を食べたいと思う市民の割合は、65.1%から38.5%に減少しました。しかし、食べてみたい又は機会があれば食べてみたいと思う市民の割合は91.5%から94.9%に増加しました。

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
瀬戸の地元食に関心を持っている市民の割合 (%)	33.0	35.0～ 38.0	19.5	C

瀬戸の地元食に関心を持っている市民の割合は、33.0%から19.5%に減少し、関心がある又はやや関心がある市民の割合も80.0%から54.9%に減少しました。

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
家庭で瀬戸焼の食器を使う市民の割合 (%)	65.5	65.5～ 70.0	45.3	C

家庭で瀬戸焼の食器を使う市民の割合については、今回の調査では、回答の選択肢を「使っている」から「いつも使っている。」に変更し、調査の対象を児童及び保護者から保護者のみにして調査を行いました。割合は、いつも使っている又は時々使っているが65.5%から45.3%に減少しました。

指標	策定時 (H27)	目標値	現状値 (R2)	評価
学校給食における瀬戸市産農産物使用回数	16回/年	22～44 回/年	38回/年	A

学校給食における瀬戸市農産物使用回数は、16回/年から38回/年に増加しました。

基本方針3：「環境」食育活動を行うための環境づくりを推進します

推進テーマ：市民・事業者・企業などの食育活動との協働

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
「食」「農」に関するイベント等に参加した市民の割合 (%)	29.4	29.4～ 35.0	—	—
家族で、「食」「農」に関するイベント等に参加した市民の割合 (%)	—	—	7.4	—

「食」「農」に関するイベント等に参加した市民の割合については、前回の調査では、児童及び保護者を対象にして家族のいずれかの参加の有無を調査しましたが、今回の調査では、設問の内容を「家族で参加したことがあるか」に変更し、保護者のみを対象に調査を行いました。

この結果、家族で「食」「農」に関するイベント等に参加した市民の割合は、よく参加している及びときどき参加しているが7.4%となりました。

その他、特筆すべきアンケート結果

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
食育に関心がある家庭の割合 (%)	85.0	—	82.1	—
食育を意識して取り組んでいることがある家庭の割合 (%)	56.6	—	56.2	—

食育に関心がある家庭の割合は、85.0%から82.1%と減少したものの、高い割合となっていますが、食育を意識して取り組んでいることがある家庭の割合は50%台となっています。

指標	策定時 (H28)	目標値	現状値 (R3)	評価
新型コロナウイルス感染症の拡大前と比較して、自宅で食事を食べる回数が増加した家庭の割合 (%)	—	—	56.6	—

新型コロナウイルス感染症の拡大前と比較して、自宅で食事を食べる回数が増加した家庭の割合は56.6%となっており、新型コロナウイルス感染症の拡大による外出自粛により、家庭内で調理を行って食事を行う内食と、家庭外で調理された料理を購入して持ち帰るあるいは配達等によって家庭内で食べる中食が増加しています。

2 本計画の策定に向けた重点事項

食育の取り組みを家庭に浸透させていくためには、子どもたちは勿論のこと保護者にも食育に関心を持ってもらえるよう、次の5つを重点事項として計画を策定します。

(1) 家庭・地域における食育の充実

人生100年時代と言われる更なる長寿化が見込まれることや、新型コロナウイルス感染症の影響で家庭における食の重要性が高まっていることから、家庭においてライフステージに応じた食育の実践につながるよう取り組みを進めます。

さらに、売れ残りや期限を越えた食品、食べ残しなどの「食品ロス」が、社会的に問題になっています。食育活動を通じて、食べ物を大事にする心を養い、食の大切さを伝えていきます。

(2) 学校や保育所等における食育の充実

地元産の農畜産物を使った安心・安全な給食、各種団体による体験型食育活動の実施など、次世代を担う子どもたちに「食」と「農」について考える機会を提供するために、食育活動を積極的に推進します。さらには、自分の健康や家族の健康について考えられる児童生徒が増えるよう、健康づくりの観点からも食育を推進します。

(3) 農業による食育の充実

食べ物の大切さを実感することによって、市民の農業への理解を図っていくことが重要になっています。

幅広い世代に対して農業体験の機会を提供し、農業体験を通し、農作業の苦労や収穫の喜び、野菜のおいしさなどに直接触れることで、食育・地産地消の推進に取り組みます。農業体験や出前講座等を通じて、農産物・地域の特性・地域の自然について、理解を深める活動を展開します。

(4) 各種イベント等との連携の工夫

現在、本市においては、行政や農業団体などが開催する各種イベントにおいて、地元農畜産物のPRが行われています。今後も、このようなイベントを通じた「食」と「農」の積極的なPRに努めていくとともに、安心・安全な地元農畜産物の情報発信に努め、地産地消や食育の推進に取り組みます。

(5) 推進体制の整備・充実

地元で採れた農畜産物は、身近で、生産者の顔が分かりやすく、市民にとって安心・安全が感じやすい食材です。市民が豊かで健やかな食生活が送れるよう、安定的に農畜産物が供給できる体制整備・充実に努めます。

また、「食」に関する体制の整備を進め、市民運動となるよう、市民と共に食育を進めていくことが重要です。そのため、食育活動が市民によって拡大していくよう、活動を支援していく必要があります。

第3章 計画の目標

1 目指す姿

本市の食育の現状を踏まえ、食育に関する取り組みが、家庭におけるライフステージに応じた食育の実践につながることを目標にして、目指す姿を設定します。

「市民一人ひとりが、
ライフステージに応じた健康的な食生活を自ら考え選択している。」

2 基本方針

目指す姿を実現するため、4つの基本方針を設定して取り組みを進めていきます。

- ① 食を通じて健康な体をつくる
- ② 食を通じて豊かな心を育む
- ③ 食を通じて環境に優しく暮らす
- ④ 食育を支える取り組みの推進

3 施策体系

目指す姿

市民一人ひとりが、ライフステージに応じた健康的な食生活を自ら考え選択している

基本方針

1 食を通じて健康な体をつくる

2 食を通じて豊かな心を育む

3 食を通じて環境に優しく暮らす

4 食育を支える取り組みの推進

施策

(1) 健康的な食生活の実践

(2) 食の安心・安全の確保

(1) 体験や交流を通じた食に対する理解の促進

(2) 地域の特色を活かした食育の推進

(1) 環境に配慮した食生活の実践

(2) 地産地消の推進

(1) 食育にかかる人材の育成

(2) 食育を推進する地域農産物の生産・供給

第4章 施策ごとの取り組み

食育に関する生涯学習的な取り組みについては、すでに教育・健康・保健・医療・福祉などの個別計画に基づき実施していることから、施策体系に基づき、関係部分を盛り込み整理することで、横断的かつ総合的に取り組みを推進します。

また、地域農産物の生産・供給に関する取り組みについては、地産地消推進計画と整合を図りながらスケジュールを作成し、一体的推進を図ります。

取り組みの対象とするライフステージを次のとおりとします。

乳幼児期	0歳～ 5歳頃
少年期	6歳～15歳頃
青年期	16歳～22歳頃
壮年・中年期	23歳～64歳頃
高齢期	65歳頃～

基本方針1 食を通じて健康な体をつくる

施策① 健康的な食生活の実践

生涯にわたって心身ともに健康で生き生きと暮らすためには、ライフステージに応じて健康的な食生活を実践していくことが必要です。

栄養管理した給食に関する情報を保護者に提供するとともに、健康的な食生活に関する情報発信や啓発活動を行うことで、家庭において栄養バランスを心がけた食事を実践してもらえよう支援していきます。

【主な取り組み】

事業名	内容	ライフステージ					担当
		乳幼児期	少年期	青年期	壮年・中年期	高齢期	
園だよりの発行等	給食展示や園だよりの発行で、給食の理解を深めます。園で実施した食育が家庭での実践につながるよう、掲示や資料配布で保護者へ周知します。	○			○		保育課 各保育園
給食だよりの発行等	給食だより、食育通信、家庭で作れる給食レシピの紹介、給食試食会を通して、健康的な食習慣に関する情報を提供します。		○		○		学校教育課 小中学校 特別支援学校

食育の推進及び保護者への啓発	食育推進委員会を中心に食育の推進と保護者への啓発を行い、子どもの食育を家庭から支える環境を整えます。				○	○	学校教育課 小中学校 特別支援学校
配食サービス	バランスの取れた食事を配達し、栄養状態の改善等で在宅での健康的で自立した生活が送れるよう支援します。					○	高齢者福祉課
介護予防教室	地域包括支援センター事業（口腔教室）において、食の重要性をオーラルフレイル予防を通して啓発します。					○	高齢者福祉課
個別相談の実施	成人を対象としたよろず健康相談や乳幼児健康相談の実施、各種教室や健診において、具体的な食生活改善へのアドバイスを行います。	○	○	○	○	○	健康課
せといきいき健康グルメ	認定条件を満たす健康メニューを市内飲食店で提供します。外食においても健康意欲を高めてもらうとともに性別、年齢問わず、健康食を食べる機会を得ることで、食生活改善への動機づけにつなげます。	○	○	○	○	○	健康課

施策② 食の安心・安全の確保

健康志向の高まりやアレルギー症状の子どもが増えてきていることなどから、食の安心・安全に関する関心度は非常に高くなっています。

保育園や学校においては、アレルギーに対応した給食を提供するなど食の安全性を確保するとともに、市民自らが安心・安全な食に関する情報を選択できるよう情報提供を行っていきます。

【主な取り組み】

事業名	内容	ライフステージ					担当
		乳幼児期	少年期	青年期	壮年・中年期	高齢期	
アレルギー給食	医師による食物アレルギー診断、除去の指示がある食品について、可能な範囲で（除去食）の対応をします。	○					保育課 保育園
アレルギー懇談会	食物アレルギー児の保護者、園長、保育士、調理員等で毎月懇談会を実施し、献立表をもとに、除去対応が必要な食品を確認します。	○					保育課 保育園
安心・安全な学校給食の提供・アレルギー除去食の提供	使用する食材の精選を行い、安心・安全でおいしい学校給食を提供します。また、校内対応委員会で決定した児童生徒について、アレルギー除去食を提供します。		○				学校教育課 小中学校 特別支援学校
保護者との定期的な面談の実施	症状の経過などを把握し対応するため、アレルギーを保有する児童、生徒の保護者と定期的な面談を実施します。		○				学校教育課 小中学校 特別支援学校
食品衛生監視	給食の作業工程の改善や設備整備のため、保健所と連携して食品衛生監視を実施します。	○					保育課 保育園
			○				学校教育課 小中学校 特別支援学校
給食用食材の産地公表	瀬戸市のホームページにおいて献立表と食材の産地を公表します。		○				学校教育課
食中毒予防	温度帯管理をすることで食中毒を予防します。	○					保育課 保育園

			○				学校教育課 小中学校 特別支援学校
	食中毒警報を発令し、速やかに市民に周知することで、食中毒の発生を未然に防ぎます。	○	○	○	○	○	健康課
瀬戸市推奨農産物 「せとのもの」認証 制度	化学合成肥農薬の使用回数や化学肥料の施用量を低減して栽培された農産物を認証し安心・安全な農産物の栽培を推奨します。	○	○	○	○	○	産業政策課

基本方針2 食を通じて豊かな心を育む

施策① 体験や交流を通じた食に対する理解の促進

農業体験や農業者等との交流は、食生活が自然の恩恵の上に成り立っていることや、食に関わる様々な人の活動に支えられていること等について理解を深める上で重要です。

保育園や学校での学習のほか、保護者を含む大人にも農業や食に触れる機会をつくり、農業や食に対する理解の促進を図ります。

また、家族など誰かと一緒に食事をすることは、健康な食生活を送るためだけでなく、楽しく食べることで豊かな心を育むことから、供食の大切さを伝えていきます。

【主な取り組み】

事業名	内容	ライフステージ					担当
		乳幼児期	少年期	青年期	壮年・中年期	高齢期	
農業体験	敷地内で野菜等を栽培するなど農業体験学習を実施します。また、周辺地域の特性を活かして、瀬戸地域アグリカルチャー推進協議会、地元団体及び保護者などと協力して農業体験学習を実施します。	○					保育課 保育園
			○				学校教育課 小中学校 特別支援学校
		○	○				産業政策課
クッキング保育	自ら育てた野菜を使用して調理を実施します。	○					保育課 保育園
瀬戸市健康づくり食生活改善協議会の推進員活動としての料理教室	離乳食、親子、児童、成人男性など幅広い層を対象に料理教室や栄養講話を実施します。	○	○	○	○	○	健康課
保健推進員活動としての栄養教室	市内 20 地区で活動する保健推進員が、テーマに沿った食習慣の普及啓発のための情報提供、栄養講話、料理教室を実施します。	○	○	○	○	○	健康課
乳児参観での給食試食	保護者が子どもと同じ乳児食を食べ、味付け、かたさ、調理法などを学びます。	○					保育課 保育園
給食参観	給食試食会などで給食についての講話を実施します。		○				学校教育課 小中学校 特別支援学校

農業展	農産物品評会や直売市などを開催し、地元産農産物に対する認知度の向上を図ります。	○	○	○	○	○	産業政策課
市民菜園	農業者以外の方に農地を貸出し、農産物を栽培する体験を通じて、食に対する理解を深めていただきます。	○	○	○	○	○	産業政策課
供食の実施	農業体験の協力者等を招き、給食を楽しみ、食に対する感謝の気持ちを育みます。	○				○	保育課 保育園
	社会福祉協議会の「よりどころ」プロジェクトや委託事業「通いの場」において、会食会を実施します。					○	高齢者福祉課
	地区社会協議会が、ひとり暮らしの高齢者等を地域の公民館に招き会食会を実施します。					○	社会福祉協議会
市民の自主的な食育に関する活動の支援	まちの課題解決活動応援補助金制度により、市民の自主的な食育に関する活動を支援します。	○	○	○	○	○	まちづくり 協働課

施策② 地域の特色を活かした食育の展開

本市は、1000年以上の歴史と伝統を有するやきものの産地であり、中世から現在まで生産が続く代表的な6つの窯「日本六古窯」として日本遺産に認定されています。

食事に欠かせない器をつくってきた歴史や、職人文化が今も息づくこの地ならではの独特の食文化など地域の特色を活かして、保育園等や学校において効果的に食育を進めていきます。

【主な取り組み】

事業名	内容	ライフステージ					担当
		乳幼児期	少年期	青年期	壮年・中年期	高齢期	
瀬戸焼の食器の使用	給食において、瀬戸市産の強化磁器食器を使用します。	○					保育課 保育園
			○				学校教育課 小中学校 特別支援学校
瀬戸焼を暮らしの中に取り入れる取り組みの推進	市民の瀬戸焼に対する理解を深め、食卓など暮らしの中に取り入れる取り組みを推進していきます。	○	○	○	○	○	ものづくり商業 振興課
瀬戸らしい食文化の継承	「せとやきっず検定」で出題している材料や道具を実際に活用して瀬戸焼の器を作成し、瀬戸ならではの食文化である「ごも飯」や「瀬戸焼きそば」等の食を絡めた総合的な学習を実施します。		○				学校教育課 小中学校 特別支援学校
			○				ものづくり商業 振興課

基本方針3 食を通じて環境に優しく暮らす

施策① 環境に配慮した食生活の実践

家庭のごみのうち、作りすぎ、食べきれなかった残飯や未開封の食品などが約9%含まれており、これらのごみを処理するため環境に大きな負荷をかけています。また、料理をつくる際にも食材のほかガスや電気などのエネルギーを無駄にしていることもあります。

食が環境に大きく関わっていることを知ってもらい、環境に優しい食生活を実践してもらえるよう取り組んでいきます。

【主な取り組み】

事業名	内容	ライフステージ					担当
		乳幼児期	少年期	青年期	壮年・中年期	高齢期	
食品ロス対策	組成調査によって家庭ごみの実態を把握し、食品ロスやごみ削減の啓発を実施していきます。 また、事業者から排出される食品残渣の堆肥化、飼料化、食品ロスの削減を目的に瀬戸市ごみ減量推進会議において取り組みを検討していきます。	○	○	○	○	○	環境課
ボカシ肥料づくり	給食の調理時発生する食材の皮などを活用して、ボカシ肥料づくりを実施します。	○					保育課 保育園
環境のことを考えた調理講座	せと環境塾の講座として、環境に優しい調理方法などを学びます。		○	○	○	○	環境課

施策② 地産地消の推進

地産地消とは、地域で生産された農林水産物を、その生産された地域内で消費しようという取り組みで、輸送距離が短くなることで環境に優しく、消費者と生産者の交流が図られ食育の機会として重要とされています。

学校や保育園等の給食に地元農産物を提供するなど、農産物や農業者をPRすることで、地域の農業や農産物への関心を高めていきます。

【主な取り組み】

事業名	内容	ライフステージ					担当
		乳幼児期	少年期	青年期	壮年・中年期	高齢期	
給食での地元農畜産物の使用	食育の日（毎月19日）、食育月間（6月）、あいちを食べる学校給食の日（6月19日）、地元の食材を味わう学校給食の日（11月19日）、全国学校給食週間（1月下旬）などにあわせてお米や野菜など地元の食材を給食で使用します。		○				学校教育課 小中学校 特別支援学校
	給食での地元農畜産物の使用について検討していきます。	○					保育課 保育園
	農業者、農業関係団体などと連携し、給食で使用する農産物の生産や供給を安定して行えるよう体制を整えていきます。	○	○				産業政策課
道の駅瀬戸しなの産直販売所	地元農産物のアンテナショップとして、農業者と協力しながら消費者が望む農畜産物を生産・販売していきます。	○	○	○	○	○	産業政策課

基本方針4 食育を支える取り組みの推進

施策① 食育にかかる人材の育成

食育の取り組みを各家庭に広めていくためには、食育について学ぶ機会と学んだことの実践の場が必要です。

そのためにも、市民に食育を広めていく人材の育成や、市民自らが実施する食育に関する取り組みを支援していきます。

【主な取り組み】

事業名	内容	ライフステージ					担当
		乳幼児期	少年期	青年期	壮年・中年期	高齢期	
アレルギー対応研修会の開催	調理員・栄養士を対象とした研修会や、アレルギー対応給食献立の試作検討会を実施します。	○					保育課 保育園
食生活改善推進員及び保健推進員の養成講座等の開催	食生活改善推進員や保健推進員のスキルアップを目的に講座等を開催します。				○	○	健康課
地産地消サポーター制度	消費者、使用店舗などが地元農産物を積極的に使用し、魅力を発信していく体制をつくっていきます。		○	○	○	○	産業政策課

施策② 食育を推進する地元農畜産物の生産・供給

食育を推進していくにあたって、地元農畜産物を活用していくことは、効果的な取り組みを実施するうえで必要不可欠です。

本市の農業の産業規模を考慮すると、食事で使用する食材の多くを地元産でまかなうことは難しいことから、どのようにして安心・安全な地元農畜産物を生産し、消費者に「この食材ならば瀬戸市産」と選んでいただくかに視点をおいて取り組みを進めていきます。

【主な取り組み】

事業名	内容	ライフステージ					担当
		乳幼児期	少年期	青年期	壮年・中年期	高齢期	
消費者に選んでいただけの地元農畜産物の生産・販売	市民の意向や消費者のニーズを踏まえ、農業者及び産直販売所と連携して、安心・安全な農畜産物を生産・販売します。	○	○	○	○	○	産業政策課

【取り組みのスケジュール】

年度	3	4	5	6	7	8
市民の意向調査 ※食育に関するアンケート時に実施	→					
道の駅瀬戸しなのの利用者意向調査	→					
生産者と生産物や時期を検討	→					
産直販売所やインターネットの使用など 販売方法や農産物の管理方法を検討	→					
生産・販売		→	→	→	→	→
生産量や販売量を把握し、改善			→	→	→	→

第5章 計画の推進体制と進捗管理

1 推進体制と進捗管理

食育は、食に関することをはじめ、規則正しい食習慣の形成、食べ物や食にかかわる人への感謝の心、生産から消費までの食の循環や環境への正しい理解など、非常に幅広い分野にわたることから、その推進にあたっては、市民、保育・教育関係者、生産者、食品関連事業者、行政等がそれぞれの役割のもと連携を図り、取り組む必要があります。

また、ライフステージに応じた切れ目のない食育を推進していくためには、各課が実施する取り組みの内容や進捗状況を共有し、連携を図っていくことが必要です。

計画の推進にあたっては、第2次計画を推進するため関係課を構成員として設置した「瀬戸市食育推進計画 推進検討会」において、引き続き行っていきます。

2 評価指標

評価指標の設定にあたっては、第2次計画から継続して実施する取り組みが多いことを踏まえ、第2次計画時の指標を引き続き第3次計画の指標とするとともに、新たに策定した基本方針4については、新規の指標を設定して取り組みの推移を見ていきます。

基本方針1 食を通じて健康な体をつくる

	指標	現状値 (R3)	目標値	目標値の 設定方法
継続	栄養バランスのとれた食事を心がけている家庭の割合 (%)	22.2	25.0	第2次計画 目標値
継続	商品を購入するとき原材料や産地を意識している家庭の割合 (%)	57.5	63.3	10%増

基本方針2 食を通じて豊かな心を育む

	指標	現状値 (R3)	目標値	目標値の 設定方法
継続	食事の時間を楽しいと感じる市民の割合 (%)	51.4	57.5	10%増
継続	瀬戸の地元食に関心を持っている市民の割合 (%)	19.5	33.0	第2次計画 目標値
継続	家庭で瀬戸焼の食器を使う市民の割合 (%)	45.3	65.5	第2次計画 目標値
継続	農業体験をしたことのある市民の割合 (%)	86.8	90.0	第2次計画 目標値

基本方針3 食を通じて環境にやさしく暮らす

	指標	現状値 (R3)	目標値	目標値の 設定方法
継続	瀬戸の農産物を食べたいと思う市民の割合 (%)	38.5	42.4	10%増
継続	農産物がどのようにつくられ、産地から運ばれているか理解している割合 (%)	67.6	74.4	10%増
継続	学校給食における瀬戸市産農産物使用回数	38回/年 (R2)	75回/年 (R7)	地産地消推進 計画目標値

基本方針4 食育を支える取り組みの推進

	指標	現状値 (R3)	目標値	目標値の 設定方法
新規	食育に関心がある市民の割合 (%)	82.1	90.3	10%増
新規	瀬戸市産及び愛知県産の農産物を意識して購入している市民の割合 (%)	13.2	15.8	20%増

参考資料 食育に関するアンケート調査結果

1 アンケート調査の概要

- (1) 対象者
市内の小学校5年生及びその保護者から585組を抽出
- (2) 調査方法
学校を通じてアンケート用紙を配布して回収

2 回答数

	配布数 ①	回答数 ②	回答率 ②÷①
児童	585	574	98.1%
保護者	584	532	91.1%

3 調査結果

割合(%)の合計数値が白い項目は、第2章の1「瀬戸市の食育の現状」及び第5章の2「評価指標」において使用しています。

【食育について】

問1-1 あなたは食育に関心がありますか。(1つに○)

	人数(人)			割合(%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
関心がある	—	437	437	—	82.1	82.1
関心がない	—	86	86	—	16.2	16.2
無回答	—	9	9	—	1.7	1.7
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問1-2 あなたは、「食育」という言葉や意味を知っていますか。(1つに○)

	人数(人)			割合(%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
知っている	298	—	298	51.9	—	51.9
知らない	273	—	273	47.6	—	47.6
無回答	3	—	3	0.5	—	0.5
合計	574	—	574	100.0	—	100.0

問2 あなたのご家庭では、「食育」を意識して取り組んでいることがありますか。
(1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
ある	—	299	299	—	56.2	56.2
ない	—	222	222	—	41.7	41.7
無回答	—	11	11	—	2.1	2.1
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

【食生活について】

問3 あなたのご家族は、普段、食事を1日3回食べていますか。(1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
ほとんど毎日食べている	—	507	507	—	95.3	95.3
週に4～5日食べている	—	14	14	—	2.6	2.6
週に2～3日食べている	—	5	5	—	0.9	0.9
ほとんど食べていない	—	1	1	—	0.2	0.2
無回答	—	5	5	—	0.9	0.9
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問4-1 あなたのご家庭では、主食で何を食えることが多いですか。

①朝食 (1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
ごはん類	—	189	189	—	35.5	35.5
パン類	—	326	326	—	61.3	61.3
麺類	—	2	2	—	0.4	0.4
食べない	—	1	1	—	0.2	0.2
その他	—	10	10	—	1.9	1.9
無回答	—	4	4	—	0.8	0.8
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問4-2 あなたのご家庭では、主食で何を食えることが多いですか。

②昼食 (1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
ごはん類	—	277	277	—	52.1	52.1
パン類	—	13	13	—	2.4	2.4
麺類	—	225	225	—	42.3	42.3
食べない	—	1	1	—	0.2	0.2
その他	—	6	6	—	1.1	1.1
無回答	—	10	10	—	1.9	1.9
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問4-3 あなたのご家庭では、主食で何を食えることが多いですか。

③夕食 (1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
ごはん類	—	517	517	—	97.2	97.2
パン類	—	1	1	—	0.2	0.2
麺類	—	0	0	—	0.0	0.0
食べない	—	0	0	—	0.0	0.0
その他	—	6	6	—	1.1	1.1
無回答	—	8	8	—	1.5	1.5
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問5 あなたのご家庭では、食事の栄養バランスを心がけていますか。(1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
心がけている	—	118	118	—	22.2	22.2
できるだけ心がけている	—	369	369	—	69.4	69.4
あまり心がけていない	—	38	38	—	7.1	7.1
心がけていない	—	4	4	—	0.8	0.8
無回答	—	3	3	—	0.6	0.6
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問6 あなたは、食事をとることが楽しいですか。(1つに○)

	人数(人)			割合(%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
楽しい	287	282	569	50.0	53.0	51.4
だいたい楽しい	219	235	454	38.2	44.2	41.0
あまり楽しくない	53	11	64	9.2	2.1	5.8
楽しくない	12	0	12	2.1	0.0	1.1
無回答	3	4	7	0.5	0.8	0.6
合計	574	532	1,106	100.0	100.0	100.0

質問7 あなたのご家庭では、新型コロナウイルス感染症の拡大前と比較して、自宅で食事を食べる回数に変化はありますか。(1つに○)

	人数(人)			割合(%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
増えた	—	156	156	—	29.3	29.3
やや増えた	—	145	145	—	27.3	27.3
変わらない	—	223	223	—	41.9	41.9
やや減った	—	3	3	—	0.6	0.6
減った	—	2	2	—	0.4	0.4
無回答	—	3	3	—	0.6	0.6
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問8 あなたは、「五目飯(ごもめし)」などの昔からある瀬戸の料理や、「瀬戸焼きそば」などの瀬戸の地元食、瀬戸の豚など瀬戸で取れた食材のメニューに関心がありますか。(1つに○)

	人数(人)			割合(%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
関心がある	114	102	216	19.9	19.2	19.5
やや関心がある	116	276	392	20.2	51.9	35.4
あまり関心がない	187	136	323	32.6	25.6	29.2
関心がない	153	15	168	26.7	2.8	15.2
無回答	4	3	7	0.7	0.6	0.6
合計	574	532	1,106	100.0	100.0	100.0

問9 あなたのご家庭では、瀬戸焼の器（うつわ・食器）を使っていますか。（1つに○）

	人数（人）			割合（％）		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
いつも使っている	—	100	100	—	18.8	18.8
時々使っている	—	141	141	—	26.5	26.5
あまり使っていない	—	121	121	—	22.7	22.7
使っていない	—	164	164	—	30.8	30.8
無回答	—	6	6	—	1.1	1.1
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

【食の安全性について】

問10 あなたは、商品を購入するとき、原材料や産地などを意識していますか。
（1つに○）

	人数（人）			割合（％）		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
意識している	114	172	286	19.9	32.3	25.9
できるだけ意識している	116	233	349	20.2	43.8	31.6
あまり意識していない	187	98	285	32.6	18.4	25.8
意識していない	153	25	178	26.7	4.7	16.1
無回答	4	4	8	0.7	0.8	0.7
合計	574	532	1,106	100.0	100.0	100.0

問11 あなたは、野菜などの農産物がどのようにつくられ、産地から運ばれているか、理解していると思いますか。（1つに○）

	人数（人）			割合（％）		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
理解している	138	57	195	24.0	10.7	17.6
だいたい理解している	271	282	553	47.2	53.0	50.0
あまり理解していない	122	181	303	21.3	34.0	27.4
理解していない	40	9	49	7.0	1.7	4.4
無回答	3	3	6	0.5	0.6	0.5
合計	574	532	1,106	100.0	100.0	100.0

質問 1 2 あなたは、低農薬でつくられた農産物を瀬戸市推奨農産物「せとのもの」と認証する取り組みを知っていますか。(1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
知っている	—	32	32	—	6.0	6.0
知らない	—	495	495	—	93.0	93.0
無回答	—	5	5	—	0.9	0.9
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

【地産地消について】

問 1 3 児 童：あなたは、瀬戸でつくられた野菜などの農産物を学校給食や家庭で食べてみたいと思いますか。(1つに○)

保護者：あなたは、瀬戸でつくられた野菜などの農産物を食べてみたいと思いますか。(1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
食べてみたい	259	167	426	45.1	31.4	38.5
機会があれば食べてみたい	272	352	624	47.4	66.2	56.4
あまり食べたくない	20	9	29	3.5	1.7	2.6
食べたくない	19	1	20	3.3	0.2	1.8
無回答	4	3	7	0.7	0.6	0.6
合計	574	532	1,106	100.0	100.0	100.0

問 1 4 あなたのご家庭では、地元の農産物を意識して購入していますか。(1つに○)

令和3年度	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
瀬戸市産を購入するように意識している	—	17	17	—	3.2	3.2
愛知県産を購入するように意識している	—	53	53	—	10.0	10.0
国産を購入するように意識している	—	355	355	—	66.7	66.7
意識していない	—	104	104	—	19.5	19.5
無回答	—	3	3	—	0.6	0.6
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問15 あなたは、どのような瀬戸市産の農産物であれば購入してみようと思いますか。
(該当するものすべてに○) N=532

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
生産者の顔が見える農産物	—	152	152	—	28.6	28.6
農薬の使用を減らした農産物	—	306	306	—	57.5	57.5
伝統野菜など普段買い物をするお店で扱っていないめずらしい農産物	—	86	86	—	16.2	16.2
栄養価の高い農産物	—	190	190	—	35.7	35.7
特にない	—	81	81	—	15.2	15.2
その他	—	4	4	—	0.8	0.8

問16 あなたは、問15の農産物を、いくらまでなら購入してみようと思いますか。
(1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
一般的な農産物と同じ価格	—	313	313	—	58.8	58.8
一般的な農産物の価格の1割増	—	160	160	—	30.1	30.1
一般的な農産物の価格の2割増	—	30	30	—	5.6	5.6
それ以上高くても購入してみたい	—	13	13	—	2.4	2.4
購入しようと思わない	—	10	10	—	1.9	1.9
その他	—	1	1	—	0.2	0.2
無回答	—	5	5	—	0.9	0.9
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問17 あなたは、学校給食で、瀬戸でつくられた野菜などの農産物が使われていることを知っていますか。(知っているものすべてに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
お米	426	255	681	74.2	47.9	61.6
なす	146	74	220	25.4	13.9	19.9
玉ねぎ	234	113	347	40.8	21.2	31.4
キャベツ	267	68	335	46.5	12.8	30.3
ヤーコン	19	15	34	3.3	2.8	3.1
アレッタ	53	27	80	9.2	5.1	7.2
里いも	160	28	188	27.9	5.3	17.0
白菜	137	24	161	23.9	4.5	14.6
知らない	119	240	359	20.7	45.1	32.5

【農業体験について】

問18 あなたはご家族で、野菜などを育て、収穫して食べる体験をしたいと思いませんか。(1つに○)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
体験したい	326	177	503	56.8	33.3	45.5
機会があれば体験したい	151	273	424	26.3	51.3	38.3
あまり体験したくない	53	49	102	9.2	9.2	9.2
体験したくない	37	22	59	6.4	4.1	5.3
その他	0	2	2	0.0	0.4	0.2
無回答	7	9	16	1.2	1.7	1.4
合計	574	532	1,106	100.0	100.0	100.0

問19 あなたはご家族で、野菜などを育て、収穫して食べる体験をしたことがありますか。(1つに○)

米づくり (田植え・稲刈り)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
体験したことがある	—	122	122	—	22.9	22.9
体験したことがない	—	382	382	—	71.8	71.8
無回答	—	28	28	—	5.3	5.3
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

野菜づくり (野菜の収穫、いもほり)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
体験したことがある	—	427	427	—	80.3	80.3
体験したことがない	—	96	96	—	18.0	18.0
無回答	—	9	9	—	1.7	1.7
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

くだものづくり (くだものの収穫)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
体験したことがある	—	262	262	—	49.2	49.2
体験したことがない	—	251	251	—	47.2	47.2
無回答	—	19	19	—	3.6	3.6
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

加工食品づくり (チーズ、ヨーグルト、ソーセージ、漬け物づくりなど)

	人数 (人)			割合 (%)		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
体験したことがある	—	207	207	—	38.9	38.9
体験したことがない	—	307	307	—	57.7	57.7
無回答	—	18	18	—	3.4	3.4
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

4つのいずれか

	人数（人）			割合（％）		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
体験したことがある	—	462	462	—	86.8	86.8
体験したことがない	—	70	70	—	13.2	13.2
無回答	—	0	0	—	0.0	0.0
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問20 あなたはご家族で、農業展など瀬戸市内の食に関するイベントや催しに参加したことがありますか。（1つに○）

	人数（人）			割合（％）		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
よく参加している	—	2	2	—	0.4	0.4
ときどき参加している	—	37	37	—	7.0	7.0
あまり参加しない	—	94	94	—	17.7	17.7
参加したことがない	—	393	393	—	73.9	73.9
無回答	—	6	6	—	1.1	1.1
合計	—	532	532	—	100.0	100.0

問21 あなたはご家族で、農業展など瀬戸市内の食に関するイベントや催しに参加したいと思いますか。（1つに○）

令和3年度	人数（人）			割合（％）		
	児童	保護者	合計	児童	保護者	合計
参加している	—	62	62	—	11.7	11.7
ときどきなら参加してもよい	—	312	312	—	58.6	58.6
あまり参加したくない	—	90	90	—	16.9	16.9
参加したいと思わない	—	63	63	—	11.8	11.8
無回答	—	5	5	—	0.9	0.9
合計	—	532	532	—	100.0	100.0